



一般社団法人
神奈川大井の里体験観光協会

〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町柳 248
TEL/FAX : 0465-43-6309
E-mail : office@taikenkankou.com
HP : http://taikenkankou.com

受託者

一般社団法人
神奈川大井の里体験観光協会

神奈川県知事登録旅行サービス手配業第59号

東京 I.C. から大井松田 I.C. まで東名高速で約 75分
品川から小田原まで東海道新幹線で約 25分

概要版

令和5年度 神奈川県委託

「県西地域における
広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務」成果報告

Report
2 1

かながわ西 働くと暮らすが変わる場所

ハタラクラス

神奈川県の県西地域（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町および、湯河原町からなる2市8町）は、都心からのアクセスが良く、山あり海あり温泉ありで、地域活動や生活文化も豊富な地域である。神奈川県では、こうした魅力を生かした県西地域でのワーケーションを広めるため、令和5年度、地域との交流をコンテンツとして組み込んだ「広域ワーケーション」のモデルツアーを企画・実施した。本紙では、令和5年度に実施した2つのモデルツアーの内容を中心に報告する。

モデル1
農ある暮らし
「お試し暮らし型」ワーケーション

モデル2
地域のお仕事体験
「ワーキングホリデー型」ワーケーション

あしがら

箱根・小田原

湯河原・真鶴

神奈川県
西部

ワーケーション
Workcation

概要

1. 本事業の全体像

当会は、神奈川県足柄上郡大井町にて、持続可能な地域社会の実現に向け、地域課題を解決するための体験観光事業を実施している。高齢化や価格下落等による農地荒廃、離農者増加など地域課題が山積する中、地域の資源を活用した農業体験や収穫体験、加工体験などを通じた観光客の受け入れを行うことで地域活性化につなげている。一方、2市8町を見渡しても状況は変わらず、多くは人口減少等による課題を抱えている。こうした状況下、地域の特徴を活かして山間部、里地里山、海岸部など地域間での事業連携も行なっている。こうした実績やノウハウを活用した体験交流プログラムの発掘・磨き上げによるワーケーション事業を展開すべく以下、事業を構成した。

本事業では、(1) 昨年度の実績を踏まえた体験交流プログラムの発掘・磨き上げによる県西における広域ワーケーションモデル事業2コースの造成、(2) 県西における広域ワーケーションモデル事業2コースの実証、(3) 事業報告書の作成および、県西地域の市町や観光協会等に対して、自走化を想定したツアー実施にかかる具体的なノウハウを含む報告会を実施した。

2. ワケーションタイプの再整理

昨年度に実施した「県西地域における広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務委託」にて行なっ

たワーケーション類型をもとに、本年度の事業の位置付けの整理からはじめた。

本事業を採択された昨年度は、観光庁の示すワーケーション実施形態に基づき、県西地域の特性や課題を考慮した3つの枠組みに整理し、『関係人口の創出・拡大に向けた「広域ワーケーション」モデル事業の実証』を行った。一定数の関係人口の創出・拡大にはつながっているものの、定住人口に繋がるかは未知数であり、より継続した働きかけが必要になると感じた。

そこで本年度は、関係人口の先にある「定住人口」を見据えた関係人口の創出・拡大(図2)に向け、「働く」と「暮らす」を明確にした「広域ワーケーション」モデル事業の企画・運営を行い、より域内への移住定住・二拠点居住等につながる可能性のある関係人口の創出・拡大に寄与できるかを検証した。

なお、ライフステージに応じた多様な移住プロセスを考慮し、昨年度は「関与・関係併進型(関わりの段階モデル)」による関係人口の創出・拡大へ向けた3つのターゲットへ向けた取り組みを行なったが、本年度は「関心先行型」(図3)による地域への思いの創出から移住につなげる取り組みとして、2つのターゲットに応じた2パターンのモデル事業を企画・造成し、運営・検証を行なった。

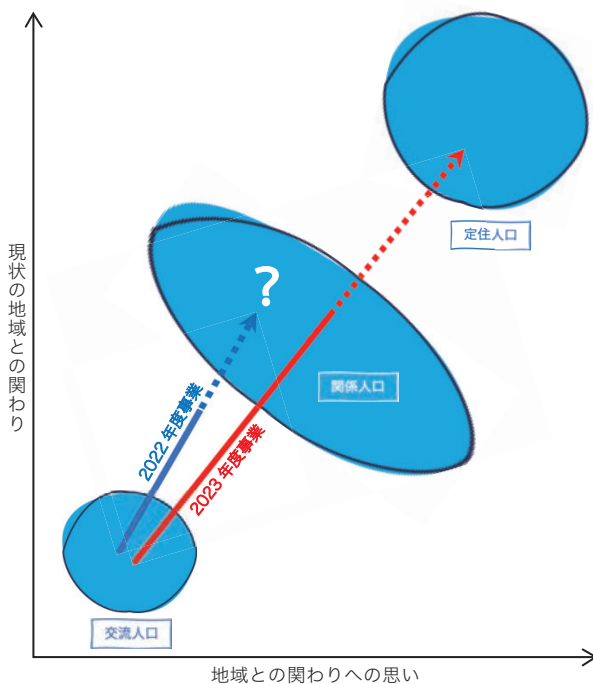


図2 定住人口を見据えた関係人口の創出・拡大

参考:「関係人口ポータルサイト、総務省」より作図

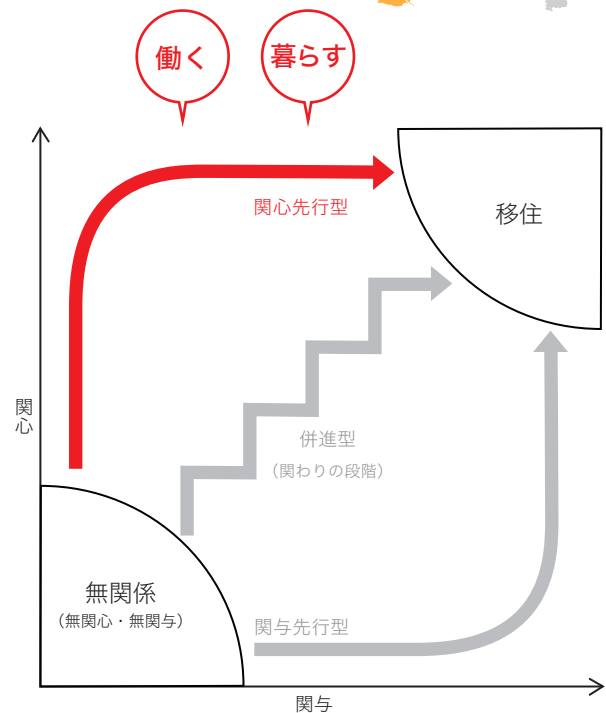


図3 地域への関わりを段階

参考:「農山村集落の実態と政策課題、小田切徳美 2019.11.01」より作図

1 モデル

農ある暮らし 「お試し暮らし型」ワーケーション

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「暮らし」と「地域交流」を軸とし、セカンドキャリアの「暮らし方」のイメージづくりから、ふるさとづくりの担い手につながるような、農ある暮らし『お試し暮らし型』ワーケーションモデル事業の磨き上げ・造成を行なった。

- 対象：都市の喧騒を離れ、自然環境に恵まれた地域での暮らしを求める 50-60 代を中心とした世代の方（3組）
- エリア：南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町

総務省の『過疎地域への移住者に対するアンケート調査 / 平成 29 年度第 2 回「田園回帰」に関する調査研究会』の年代別アンケート結果によると、地域へ移住した 50-60 代では「移住する際、重視した条件」として、1 位に「大がかりな改修をしなくてもすぐに住める家があること / 50 代」「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること / 60 代以上」が挙げられている。次いで「生活が維持できる仕事（収入）があること」「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」などが挙げられているものの、「何年か行き来して知り合いができたり、生活していける目処が立っていること」も上位にランキングしていることから、地域とのつながり要素も重要視していることが分かる。そこで本モデル事業では、都心の喧騒から離れ、自然環境に恵まれた地域で「お試し暮らし型」のワーケーションとして、町内住宅に滞在して、住民や農家との交流、観光やテレワークをしながら過ごすツアーとして関係人口の創出・拡大を目指し、1泊2日のコースと2泊3日の2コースを造成した。

本ツアーは農に親しみながら、地元飲食店を利用したり、地元スーパーや直売所にて購入した食材で自炊したり、移住後の生活疑似体験を行うことができるのが特徴のツアー。大井町の「お試し住宅」と民泊（モニター民泊）を利用することで、より暮らしに密着した時間を過ごすしてもらうことを狙った。また、神奈川県が紹介する県西地域のコワーキングスペースを活用したテレワークや、ポケット Wi-Fi を貸与し、場所にこだわらずテレワークができるよう体制構築を行なった。

さらに、自身で域内を自由に散策していただけるよう、地域に暮らすコンシェルジュと LINE グループでつながり、観光情報、生活情報、おすすめの情報などを入手できるサービスを提供した。なお、ツアー終了後もコンシェルジュとの交流を継続させることで、再来訪につなげる仕掛けとした。

2 モデル

地域のお仕事体験 「ワーキングホリデー型」ワーケーション

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「働き方」と「地域交流」を軸とし、移住・定住あるいは、二拠点居住など新しいライフスタイルの獲得に向け、新たな「働き方（生活）」がイメージできるよう、地域のお仕事体験をする『ワーキングホリデー型』のワーケーション事業の磨き上げ・造成を行なった。

- 対象：地域への「関わりしる」を求める 20-30 代の若い世代 / 子なし
および、セカンドライフを地方に求める 50-60 代を中心とした世代（24 名）
- エリア：小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町・山北町

同様、総務省のアンケート結果によると、地域へ移住をした 10・20 代、30 代では「移住する際、重視した条件」として、1 位に「生活が維持できる仕事（収入）があること」が挙げられている。次いで「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」「子育てに必要な保育・教育施設や整備が整っていること」「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」が挙げられている。さらに続いて、10・20 代、30 代でも「何年か行き来して知り合いができたり、生活していける目処が立っていること」が上位にランキングしていることにも注目している。そこで本モデル事業では、地域のお仕事を体験することで地域で働くこと（副業・複業含め）で、収入のイメージづくりと地域の仕事とのマッチングの機会につながることを期待し「ワーキングホリデー型」のワーケーションとして、お仕事先の方々との交流、観光やテレワークをしながら過ごすツアーとして関係人口の創出・拡大を目指したツアー造成を行なった。

本ツアーでは、あらかじめ自分の希望した「地域のお仕事」を 2 つ体験できる。また、自由に域内もコワーキングスペースを活用したテレワーク時間も設けており、移住後のさまざまな働き方を通じた仕事をイメージしてもらうのが特徴のツアー。さらに、自身で域内を自由に散策していただけるよう、地域に暮らすコンシェルジュと参加者同士が LINE オープンチャット機能を活用してつながり、観光情報、生活情報、おすすめの情報などを入手できるサービスを提供した。ツアー終了後もコンシェルジュとの交流を継続させることで、再来訪につなげる仕掛けとした。

1 モデル

農ある暮らし

「お試し暮らし型」ワーケーション

あしから

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「暮らし」と「地域交流」を軸とし、セカンドキャリアの「暮らし方」のイメージづくりから、ふるさとづくりの担い手につながるような、農ある暮らし『お試し暮らし型』ワーケーションモデル事業の磨き上げ・造成を行なった。

箱根・小田原

1日目 (11/10.金)

2泊3日コースは、2組4名の方が金曜日の11時に集合した。1組はすでに何度か大井町に通っている方で、農ある暮らし方に興味を持っている方々であった。もう1組は、日本で暮らす場所を探しているというご夫婦で、夫は台湾の方、妻が日本の方という方々であった。会場は、開成町の瀬戸屋敷の蔵。非日常空間での気持ちの高揚や、地域の雰囲気や、地域の観光案内、お試し住宅の利用方法など事務的な話に加え、LINEグループで情報収集、共有などを行える仕組みに挑戦すべくレクチャーを行なった。参加者同士はもちろん、地域の案内役として地域の方にコンシェルジュになっていただき、LINEグループに登録、サポートする仕組みである。グループへの登録後は、手始めにみなさんに自己紹介を投稿してもらい、使い方に慣れてもらった。

オリエンテーション後は、農への興味喚起につながるよう、JA職員からの午後に体験するキウイ収穫等についての講話を行なった。県西地域でのキウイ栽培は、いつ頃からはじまり、どのような作業を経て出荷され、どれくらいの量を栽培しているのかなど、話を聞かなかで、「国産キウイ」が身近にあることに驚いている参加者もいた。その後は、ランチ交流会を設定した。蔵の2階の



空間にて円座で、地元野菜などを使った弁当を食べながら自由な交流を行った。いろんな話をするうちに、少しずつ緊張がほぐれていく様子が伝わってきた。

昼食後は【農ある暮らし体験1】にて、キウイの収穫・選果作業体験と貯蔵庫見学であった。朝からあいにくの天気であったため、雨天プログラムとして用意していた収穫したキウイの加工体験としてキウイジャムづくりを行うべく、傘をさしながら材料調達に出かける予定が、キウイ畑に到着した途端に雨が上がり、急遽、晴天プログラムとしてのキウイの収穫体験をすることとなった。参加者数に合わせ数本のキウイの木に実っているキウイを総もぎする。JA職員からキウイのもぎ方を教わってからもぎはじめる。片手でキウイを掴み、回しながら引っ張るとポロッと取れる。意外と簡単に収穫ができ、新鮮な体験にどんどん収穫されていく。しかし、キウイ畑はオーナーさんの背丈に合わせてもぎ易い高さに枝を這わせているため、参加者にとっては腰を曲げた状態での作業となった。1時間程度で総もぎを終え、次に向かったのは貯蔵庫の脇の作業場である。ここで今度はキウイの選果体験を行う。「良・普通・それ以外」の3種類に分類。形や大きさ、傷の具合などを見ながら選果していく。はじめは慣れずにもたもたしていたが、徐々に慣れ始め、作業スピードが上がっていく。途中、「出荷する際は規



- 日 程：2023年11月10日（金）～12日（日）のうち1泊2日コースと2泊3日コースを設定して実施
- 参加者：都市の喧騒を離れ、自然環境に恵まれた地域での暮らしを求め方をターゲットに3組6名の参加
- エリア：南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町
- 協 力：JA かながわ西湘、大井町役場（お試し住宅）、農家（大井町・中井町）
大井町体験活動指導者 / NEAL プログラム委員会（自然体験活動指導者）



格外だけど、こんな扁平なキウイがほんとはうまいんだよ」など、流通や出荷に関する会話なども飛び交っていた。せっかくなので雨天プログラムも実施すべく、瀬戸屋敷の蔵へ戻ることにした。

収穫したてのキウイは追熟しなくては食べられないため、木から熟して落ちているキウイを使ってジャムづくり体験を行なった。キウイを切って、砂糖と一緒に焦げないように煮詰めて水分を飛ばす。蔵中に甘いキウイのいい香りが満たされる。最後の決め手はレモン汁を少し垂らすことで味がグッとしまる。そして、出来立てのジャムはお土産用に瓶に詰めた後、残ったジャムをクラッ



カーに乗せて試食をする。その美味しさに歓喜の音が響き渡った。農ある暮らし体験を通じ、参加者同士の交流も進み良い雰囲気になってきた。

その後、翌日の12時まではフリータイムである。LINEグループによるコンシェルジュを活用して域内を観光するもよし、夕食の買い出しにいくもよし。また、金曜ということもありコワーキングスペースでのテレワークを行うもよし。それぞれのペアは瀬戸屋敷を後にした。

LINEオープンチャットへの投稿から参加者は、スイーツ店へ出かけたり、チェックインをして夕食を食べに出かけたりしたことが伺えた。

2日目（11/11.土）

ツアー2日目からは、1泊2日コースの方々1組2名が合流する。11時に大井町農業体験施設「四季の里」に集合した。2泊3日コースに参加の方は午前中フリータイムであったがLINEグループへの投稿から、朝の里山散策をしたペアやコワーキングスペース Ar を利用されたペアなど、それぞれのお試し住宅の立地に合わせた行動をされていたようである。

2日目から合流されたペアは前日同様、ツアー中の過ごし方、地域の観光案内、民泊での過ごし方など事務的な話に加え、LINEグループに登録、サポートする仕組みについてのレクチャーを行い、LINEグループへの挨拶投稿してもらったところで、2泊3日コースの方々とリアル合流をして、ランチ交流会に向け農家のご自宅へ移動した。

農家の家に到着後、お茶を飲みながら農家の家についてのレクチャーを受けた。間取りや昔の冠婚葬祭はすべて家で行っていたため、たくさんの人が集まれるようになってきているような話などを聞いた。実際の農家の家を見学できたことが農ある暮らしの「暮らし」のイメージづくりにもつながったと思われる。その後は、ランチ交流会。本日も地場野菜を使った地元の手づくりお弁当を囲み、和やかな交流の機会となった。また、デザー



民泊による滞在が
より一層、
地域の魅力の深化に！

LINEのオープンチャット機能活用で
旅マエ↓旅ナカ↓旅アトの
情報提供・蓄積と交流促進が実現！

あしがら

箱根・小田原



トには、これから植えるそら豆（冷凍しておいたもの）の試食を通じて、そら豆の植え方などの講話がはじまり、いよいよ畑へ出かける準備が整った。

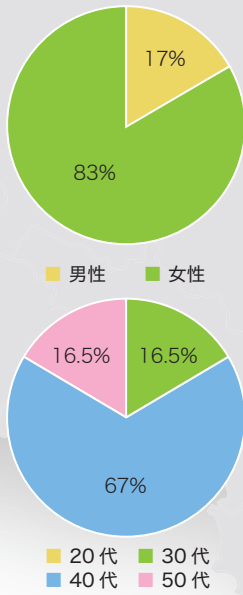
1泊2日コースの方は、【選べる！選択プログラム】にてA：フリータイム、B：農ある暮らし体験のいずれかを選択することになっている。また、1日目と2日目で各1回ずつ選択する必要があり、今回の参加者ペアは1日目をAコース、2日目にBコースを選択したため、一旦ここでお別れである。引き続き、1日目から参加している2組4名で畑へと向かった。

いよいよそら豆の植え付け体験がはじまる。その前に、

畑を整地し、畝をつくり、肥料を撒いてからマルチを張る。ここまでが一苦勞である。そして、やっとそら豆の種まきができる。配られた種をみてみんな驚愕する。なんともグロテスクな色合いである。防虫対策や誤って食べないようにと着色されていることを知る。植え方にも向きがある。どのように芽が出て葉が開くのかを想像して、少し種の頭を出して植えるなど、農業/家庭菜園の手解きを受けた。ただ種を蒔けば良いだけではないことを改めて知る。農ある暮らしへの一歩を踏み出した気がした。このように畑作業は大勢でとりかかると楽である。マルチを張るにも、種を植えるにもあっという間にできてしまった。そんな喜び農家と記念撮影をして終了となった。家に戻る途中、ごほうびとしてみかんの収穫体験もさせていただいた。そして、17時からのホームパーティー交流会を前に解散した。1泊2日コースの方々は、民泊家庭の方との対面式を行なった。

17時からのホームパーティーは、赤田地区にあるお試し住宅で実施。昔ながらの平家であり、みなが集って交流会ができるような作りになっていることを学んでいた。利用を通じて実感する。農家と地域の方、役所の方などを交えて交流会スタート！地元の仕出しにて、相模湾の海の恵み、大井町相和地区の野菜、桜花漬のおむすび、地元そばの会の打った地粉のあしなが蕎麦を堪能

■ 参加者の属性 (性・年代)



■ 参加者募集チラシ/ツアー行程



する。もちろん、地域の地酒を並べて会話も進んだ。

3日目 (11/12.日)

最終日、民泊体験をしていたペアからは素敵な朝食画像がLINEグループに届いた。各自が滞在施設で朝食を済ませて、午前中は皆が【農ある暮らし体験3】へ参加する。集合時間、集合場所を間違えないようLINEグループへの投稿を行なったこともあって、各自が自家用車等で中井町の農家宅へ集まってきた。また、前日のホームパーティ交流会で農家との対面、交流を済ませていたこともあって、すんなりと体験がスタートできた。



農作業は大きく2つ、ひたすら玉ネギの定植と収穫体験である。広大な敷地の畑に敷かれたマルチのポットにただただひたすら玉ネギの苗を植えていく作業である。農家にとってはいつもの作業であるが、参加者にとっては貴重な体験となり楽しみながら作業が行えた。おかげで農家は「大助かり！」ということで、ご褒美として露地野菜(サツマイモ、ネギ、ニンジンなど)の収穫体験を楽しみ、たくさんのお土産となった。お昼は納屋にコンテナにコンパネを敷いた簡易食卓を作成。温かい豚汁とご飯、農家の育てた野菜の漬物を頂きながら交流が行えた。午後は、中井町の里都まち caféへ移動して3日間のおさらいとして、リフレクションを実施した。農ある暮らし「お試し暮らし型」ワーケーションに参加して何が達成できたのか、自身の気持ちの変化などのインタビュー調査を行ったり、アンケートへの協力をお願いしたりして解散となった。帰りの小田急線「新松田駅」のホームから笑顔で野菜を抱える参加者の写真がLINEグループへ届いた。地方で働きながら農ある暮らしを送るイメージづくりにつながる3日間となったように感じた。



2 モデル

地域のお仕事体験

「ワーキングホリデー型」ワーケーション

あしがら
「定住人口」の創出につながる関係人口の創出に向け、「働き方」と「地域交流」を軸とし、移住・定住あるいは、二拠点居住など新しいライフスタイルの獲得に向け、新たな「働き方(生活)」がイメージできるよう、地域のお仕事体験をする『ワーキングホリデー型』のワーケーション事業の磨き上げ・造成を行なった。

箱根・小田原

1日目 (2/16.金)

本ツアーでは、開始に先立ち LINE オープンチャット機能を活用した事前情報の提供と交流の場を設定した。2泊3日という短期間で地域の魅力を実感していただくべく、旅の計画立案、参加者同士の把握時間を事前に実施してもらうという仕掛けである。オープンチャットのノート機能を利用し、「お名前/フルネーム」「好きな食べ物」「好きなこと」「メッセージ」の4点とプロフィール写真の掲載を依頼した。また、事務局からは地域の観光情報を配信。旅マエにあしがらエリアのイメージづくりを行なった。

集合・オリエンテーション会場は、南足柄市女性センターとした。会場の建物には、参加者の宿泊するホテルとぞんコンフォート大雄山やコワーキングスペースのヴェルミ minami も入居しており、非常にアクセスが良いことを考慮した。10時を過ぎるとパラパラと参加者が集まり、定時に開始することができた。都内や横浜市からの参加が多くを占める中、秋田県や愛知県などからの参加もあった。オリエンテーションでは、3日間の過ごし方やお仕事体験の内容やアクセスの確認など事務的なことをお伝えしたのち、ともに過ごす方々の交流促進とツアーへの参加意欲向上、ともに活動するメンバーとより深いお仕事体験ができるよう、自己紹介やお互いの



理解醸成につながるアイスブレイクを行なった。一気に堅い表情は緩み、和気藹々とした雰囲気が出来上がった。その中で、「事前に LINE オープンチャットがあったのでどんな方が参加するのか分かって安心した」という声が聞けた。オリエンテーションが終わったら昼食以降はフリープログラムとなる。LINE オープンチャットやアイスブレイクの効果もあり、初対面の方々と一緒に食事に出かけたり、同じコワーキングスペースにテレワークに出かけたりする様子が伺えた。そのほか、LINE オープンチャットへの投稿から、「コワーキングスペースのWi-Fi環境の共有」「平日ランチ 100円割引の情報」「ラー

